

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-298331

(43)公開日 平成 5 年(1993)11月12日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/21	Z	7218-5L		
9/44	3 3 0 Q	9193-5B		
13/00	3 5 1 E	7368-5B		
15/40	5 0 0 Z	7060-5L		

審査請求 未請求 請求項の数 6 (全 13 頁)

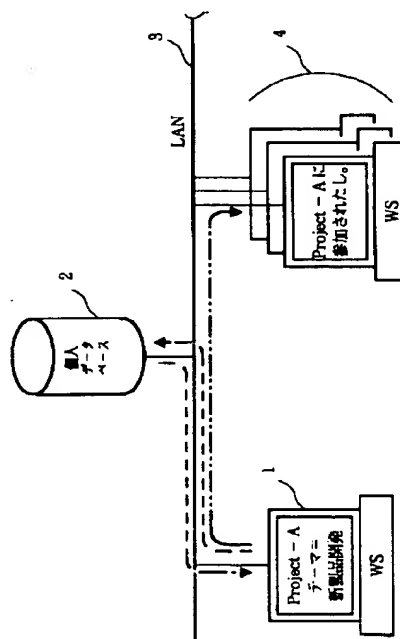
(21)出願番号	特願平4-99328	(71)出願人	000001007 キャノン株式会社 東京都大田区下丸子 3 丁目30番 2 号
(22)出願日	平成 4 年(1992) 4 月20日	(72)発明者	鈴木 保人 東京都大田区下丸子 3 丁目30番 2 号 キャ ノン株式会社内
		(74)代理人	弁理士 大塚 康徳 (外 1 名)

(54)【発明の名称】 意志決定支援システム

(57)【要約】

【目的】 データベースの情報に基づいて効率的な意志決定を行う。

【構成】 プロジェクトメンバを選定するに当たり、W S 1より種々の条件を入力し、この条件によって、S Q Lアクセス文を生成し、個人データベース (PDB) 2を検索する。PDB 2より得られた個人の情報と条件テーブル 1'2にセットされた入力条件に基づいて、PDB 2より得られた候補者 1人 1人についてスコアを付けることによって、だれがプロジェクトメンバとして適任であるかを絞り込む。その後、スコアの評価の高い順にその候補者に電子メールによってプロジェクトへの参加要請を行う。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 意志決定を行うための情報をデータベースとして格納する記憶手段と、前記意志決定を通知するための通信手段を備えた意志決定支援システムにおいて、

前記意志決定を行うための条件を入力する入力手段と、前記入力手段によって入力された前記条件に基づいて、前記記憶手段のデータベースに前記意志決定を行うための情報を検索する検索手段と、

前記検索手段によって検索された情報と前記入力手段によって入力された前記条件とに基づいて、前記検索された情報からさらに重要な情報を抽出する抽出手段と、前記抽出手段によって抽出された前記重要な情報を前記通信手段に出力する出力手段とを有することを特徴とする意志決定支援システム。

【請求項2】 前記出力手段は前記重要な情報を通知する通知先を選定する選定手段を有することを特徴とする請求項第1項に記載の意志決定支援システム。

【請求項3】 前記意志決定はプロジェクトのメンバ決定に用いられることを特徴とする請求項第1項に記載の意志決定支援システム。

【請求項4】 前記意志決定は会議の出席要請のための出席者決定に用いられることを特徴とする請求項第1項に記載の意志決定支援システム。

【請求項5】 前記通信手段はLANと電子メールとを備えることを特徴とする請求項第1項に記載の意志決定支援システム。

【請求項6】 前記データベースはSQLによってアクセスされ、前記検索手段は前記入力手段によって入力された前記条件に基づいて、前記データベースをアクセスするためのSQLを生成することを特徴とする請求項第1項に記載の意志決定支援システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は意志決定支援システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来よりLAN結合分散型情報処理システム（以下、システムという）に電子メールを組み合わせることにより、単に情報を入力加工するといった処理に加えて、システムを構成するワークステーション相互間で情報の交換や通知が行われている。

【0003】ワークステーション相互間で情報の交換や通知という機能の典型的な利用例はあるプロジェクトに関係する会議の召集を関係部署に通知することや、その会議への出席確認をとることなどである。特に、最近の企業では従来の業務体系や責任分担にかかわらず、タスクフォース的に緊急度の高い・重要な業務の遂行のためプロジェクトチームを結成することが頻繁に行われているので、システムを会議の召集のための連絡手段として

用いるといった使用法はその重要性を増してきている。

【0004】さて、このようなタスクフォースのプロジェクトの発足に際する人選に関しても、システムは大きな役割を果たす。システムが企業の従業員個々のパーソナルな情報（専門分野、経験、性格、現在のポジションなど）を管理するデータベースを保有する場合は特に、そのデータベースが有する情報がプロジェクトメンバ選定の大きな要素となる。特に、企業規模が大きくなればなるほど、人事移動、組織変更などは日常茶飯事の事であり、さらに、プロジェクトの責任者が企業の従業員全てと面識をもつことは困難となつてゆくの、ある特定技術に関連した知識のある、或は、関係の深いメンバを幅広く募りたい場合など、データベース情報はプロジェクト結成の生命線ともなる。逆に、データベースを用いないとすれば、選定されるプロジェクトメンバはプロジェクトの責任者の面識・知識の範囲に限定される。

【0005】従つて、上述のことをまとめると、■データベースの検索、■データベースの検索結果に基づくメンバ選定、■選定されたメンバに対する会議の召集の通知、■出席者の確認といったプロセスを経てタスクフォースが形成される。そして、こうしたプロセスの1つ1つにシステムは関与する。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら上記従来例では、データベースの検索とデータベースの検索結果に基づくメンバ選定は、以下に述べる理由のため、必ずしも容易とは言えない。

（1）プロジェクトの内容に依存してデータベースの検索条件は常に変化するので、適切なデータベース検索条件を見いだすことが難しい。

（2）最近ではSQLなどの4GLによってデータベース検索が容易になっているものの、種々の検索条件を変えながらデータベース検索を繰り返すのは時間がかかる。

（3）4GLは英語指向のデータベースアクセス言語であり、やはりエンドユーザが容易く使用できるものではない。

（4）検索結果から最終的な結果である、例えば、プロジェクトメンバを選定することはデータベースの検索とはまったく別の問題であり、これにはプロジェクトの責任者の経験や主観が関与し、客観的な評価が乏しくなる。

【0007】本発明は上記従来例に鑑みてなされたもので、データベース検索を容易にするとともにデータベース検索結果に基づく意志決定を支援する意志決定支援システムを提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明の意志決定支援システムは、以下のような構成からなる。即ち、意志決定を行うための情報をデータバ

ースとして格納する記憶手段と、前記意志決定を通知するための通信手段を備えた意志決定支援システムにおいて、前記意志決定を行うための条件を入力する入力手段と、前記入力手段によって入力された前記条件に基づいて、前記記憶手段のデータベースに前記意志決定を行うための情報を検索する検索手段と、前記検索手段によって検索された情報と前記入力手段によって入力された前記条件とに基づいて、前記検索された情報からさらに重要な情報を抽出する抽出手段と、前記抽出手段によって抽出された前記重要な情報を前記通信手段に出力する出力手段とを有することを特徴とする意志決定支援システムを備える。

【0009】

【作用】以上の構成により本発明は、入力された条件に基づいてデータベースを検索し、さらに入力された条件とデータベースより検索された情報から重要な情報を抽出し、この重要な情報を通信手段に出力するよう動作する。

【0010】

【実施例】以下添付図面を参照して、本発明の好適な実施例を詳細に説明する。

【0011】図1は本発明の代表的な実施例である複数のワークステーションとデータサーバで構成されるLAN結合分散型情報処理システムに組み込まれた意志決定支援システムの構成を示す図である。本実施例では、意志決定の典型的な例として、データサーバに格納されたある企業の個人データベースに基づいてプロジェクトのメンバを選定する場合と考える。

【0012】図1において、複数のワークステーション（以下、WSという）とデータサーバはLAN伝送路3（例えば、イーサネット）によって互いに接続されてシステムを構成する。複数のWS1と4は互いに対して主従関係のない対等なWSとして存在するが、処理内容に応じて動的に特定のWSがマスタWSとして、残りがスレーブWSとして動作することもある。本実施例ではWS1がプロジェクト責任者が使用するワークステーション、WS4がプロジェクトメンバが使用するワークステーションとする。なお、図1の2はデータサーバに格納された個人データベースであり、図2に示すようなテーブル形式（即ち、RDB）の従業員情報が格納されている。本実施例では、個人データベース2はSQLによってアクセスされるものとする。また図1において、破線はWS1～個人データベース2間のデータの流れ、2点鎖線はWS1から選別されたメンバのWS4へのメールの流れを示す。

【0013】また図1に示したWS1、4は公知の技術によって開発されたハードウェアによって構成され、図示はしないが、CPU、RAM、ROM、CRT、キーボード、マウス、LANインタフェース通信装置、ハードディスク・フロッピディスクなどの補助記憶装置な

どが含まれている。また、ワークステーション同志はLANを介して電子メールを交換できる機能を備えているものとする。

【0014】本実施例に示すプロジェクトメンバの選定は、プロジェクト責任者がWS1より関与するプロジェクトの各種条件を入力することによって、個人データベース2（以下、PDBという）が検索され、以下に示す処理が実行されることによってなされる。

【0015】図3はWS1が実行するプロジェクトメンバ選定処理の概要を示す図である。プロジェクトメンバ選定処理は処理部11が個人データベース2を検索して条件テーブル12と候補者テーブル13とを作業領域として用いながら実行する。ここで、処理部11はCPU及びROMに記憶され、またはRAMにロードされた処理プログラムを含み、テーブル12、13もRAM上に設けられる。条件テーブル12は、後述する処理において、プロジェクトの各技術分野ごとの所要人数や、要求される・好ましい得意分野や資格、及びそれらプロジェクトに対する貢献度で重み付けしたポイントといった諸条件を保持するテーブル（記憶領域）である。また、候補者テーブル13はプロジェクトメンバ候補者とそのメールアドレス（電子メールで使用）・候補者のプロジェクトに対する最適度を示すポイント（以下、これをスコアという）の一覧表である。

【0016】次に、処理部11の処理プログラムが実行するプロジェクトメンバ選定処理について、図4～図6に示すフローチャートを参照して説明する。

【0017】まずステップS1では、プロジェクト責任者がWS1に、プロジェクト発足の各種条件（テーマ・技術分野・緊急度・性格・期間・人数など）を入力すると、処理プログラムは条件テーブル12に、■プロジェクトに要求される好ましい得意分野とその得意分野のプロジェクトに対する貢献度を定量化した数値（ $f_1$ ）、■プロジェクトに要求される好ましい資格とその資格のプロジェクトに対する貢献度を定量化した数値（ $f_2$ ）、■必要とされる技術分野毎にプロジェクトに要求される人数（ $n_i$ ： $i=1..N$ ／ $N$ は必要とされる技術分野の数）、■プロジェクトの重要度（ $f_4$ ）などをセットする。なお、■と■の得意分野や資格は複数となることも有り得る。また $f_1$ と $f_2$ と $f_4$ はどのような表現を用いても良いが、PDB2中の現在の業務の重要度（ $f_3$ ）と同じ考えに基づく指標（例えば、0～100の101段階評価など）であるべきである。

【0018】次にステップS2において、条件テーブル12にセットされた技術分野の1つを取り出す。さらに、ステップS3で条件テーブル12にセットされた技術分野すべてに関してPDB2の検索を終了したかどうかを調べ、検索終了なら処理を終了し、そうでなければ処理はステップS4に進む。ステップS4では、ステップS2において取り出された技術分野を検索キーとして

PDB 2を検索する。この検索は処理プログラム 1 1 が SQL を用いて PDB 2 への検索コマンドを自動作成し、指定された技術分野にかなう候補者の社員コード、メールアドレス、技術分野、得意分野、資格などを取り出す。

【0019】次に、検索されたすべての候補者一人一人に対して、それが今考慮中のプロジェクトのメンバとしてふさわしいかどうかを絞り込む。この処理は候補者一人一人に対して以下に述べる基準に従ってスコア (S) を付けることによってなされる。

【0020】ステップ S 5 では、すべての候補者に関してスコアリングが終了したかどうかを調べ、終了なら処理はステップ S 1 1 に進み、そうでないなら処理はステップ S 6 に進む。ステップ S 6 では、スコアリング対象となる候補者のスコア (S) を初期化 (スコアを "0" とする) して候補者テーブル 1 3 にセットする。続いて処理はステップ S 7 において、PDB 2 から取り出された情報と条件テーブル 1 2 にセットされた条件の 1 つであるプロジェクトに要求される好ましい得意分野とを比較する。ここで、対象の候補者がプロジェクトに要求される好ましい得意分野を有していれば、スコア (S) に数値 ( $f_1$ ) を加える。

【0021】ステップ S 8 では、PDB 2 から取り出された情報と条件テーブル 1 2 にセットされた条件の 1 つであるプロジェクトに要求される好ましい資格とを比較する。ここで、対象の候補者がプロジェクトに要求される好ましい資格を有していれば、スコア (S) に数値 ( $f_2$ ) を加える。さらにステップ S 9 では、PDB 2 から取り出された情報の 1 つである現在の業務の重要度 ( $f_3$ ) をスコア (S) から引く。ステップ S 1 0 では処理を次の候補者に進める。

【0022】このような処理をすべての候補者に対して行うことによって、すべての候補者に関するスコア ( $S = f_1 + f_2 - f_3$ ) 一覧表ができ上がる。続いて処理はステップ S 1 1 において、スコア (S) の高い順に候補者をソーティングする。そして、ソーティングされた順に候補者一人一人に対して以下のような処理を実行する。ステップ S 1 2 ではスコア (S) の最も高い候補者に注目する。ステップ S 1 3 ではすべての候補者に対する処理が終了したかどうかを調べ、処理終了なら処理はステップ S 1 8 に進み検索を次に技術分野に進めるよう制御して、処理はステップ S 3 に戻る。これに対して、処理終了でなければ、処理はステップ S 1 3 に進む。ステップ S 1 4 では、候補者の処理数が条件テーブル 1 2 にセットした値 ( $n_1$ ) を越えたかどうかを調べる。ここで、値 ( $n_1$ ) を越えたなら、その技術分野に関しては所定の人数を満たしたと判断して、処理はステップ S 1 8 に進む。これに対して、値 ( $n_1$ ) 以下であるなら処理はステップ S 1 5 に進み、その候補者に対して (実際はその候補者が使用している WS 4 の 1 つ) に会議招集のための

メールを発信する。ステップ S 1 6 では次の候補者に処理を進め、ステップ S 1 7 では処理済カウンタ (C) を +1 して候補者の人数を 1 人満たしたとする。

【0023】このようにして、プロジェクトに関係するすべての技術分野に関して所定の人数の候補者が選択されてメールが発信される。

【0024】さて次にステップ S 7 とステップ S 8 の処理の詳細各々について、図 5 ~ 図 6 に示すフローチャートを参照して説明する。

【0025】(1) ステップ S 7 の処理

ステップ S 7 1 では PDB 2 から取り出された得意分野すべて (これは候補者個人個人によって 1 つであることも複数であることも有り得る) についての処理が終了したかどうかを調べる。ここで、処理終了なら処理はステップ S 8 に進むが、そうでなければ処理はステップ S 7 2 に進む。ステップ S 7 2 では条件テーブル 1 2 にセットされたプロジェクトに要求される好ましい得意分野の最初のものに注目する。ステップ S 7 3 では条件テーブル 1 2 にセットされたすべての得意分野に関する処理が終了したかどうかを調べる。ここで、処理終了なら処理はステップ S 7 7 に進み、PDB 2 から取り出された得意分野の次にものに処理を進め、処理はステップ S 7 1 に戻る。これに対して、処理終了でないなら処理はステップ S 7 4 に進む。

【0026】ステップ S 7 4 では、現在注目している条件テーブル 1 2 の中の得意分野と、候補者の得意分野を比較する。ここで、得意分野どうしが一致すれば、処理はステップ S 7 5 に進み、所定の数値をスコア (S) に加える。これに対して、一致がなければ処理はステップ S 7 5 をスキップしてステップ S 7 6 に進む。ステップ S 7 6 では条件テーブル 1 2 にセットされた次の得意分野に処理を進め、処理はステップ S 7 3 に戻る。

【0027】(2) ステップ S 8 の処理

ステップ S 8 1 では PDB 2 から取り出された資格すべて (これは候補者個人個人によって 1 つであることも複数であることも有り得る) についての処理が終了したかどうかを調べる。ここで、処理終了なら処理はステップ S 9 に進むが、そうでなければ処理はステップ S 8 2 に進む。ステップ S 8 2 では条件テーブル 1 2 にセットされたプロジェクトに要求される好ましい資格の最初のものに注目する。ステップ S 8 3 では条件テーブル 1 2 にセットされたすべての資格に関する処理が終了したかどうかを調べる。ここで、処理終了なら処理はステップ S 8 7 に進み、PDB 2 から取り出された資格の次にものに処理を進め、処理はステップ S 8 1 に戻る。これに対して、処理終了でないなら処理はステップ S 8 4 に進む。

【0028】ステップ S 8 4 では、現在注目している条件テーブル 1 2 の中の資格と、候補者の資格を比較する。ここで、資格どうしが一致すれば、処理はステップ

S 8 5に進み、所定の数値をスコア（S）に加える。これに対して、一致がなければ処理はステップS 8 5をスキップしてステップS 8 6に進む。ステップS 8 6では条件テーブル1 2にセットされた次の資格に処理を進め、処理はステップS 8 3に戻る。

【0 0 2 9】従って本実施例によれば、プロジェクト責任者が入力した条件に基づいて、自動的にP D B 2に対する検索条件が生成されてプロジェクト候補者が抽出され、さらにその候補者一人一人についてのプロジェクトに関する適正が評価されて最終的にプロジェクトメンバが決定される。

【0 0 3 0】〔第2実施例〕前述の実施例ではプロジェクトメンバ選定に当たって、候補者個々の現在従事しているプロジェクトの重要度を1つのファクタのみによって考慮した。しかしながら、現在考慮中のプロジェクトも、現在従事しているプロジェクトも時間とともに進行し、それに従って各人のプロジェクトへの関与の仕方（或は、貢献度や重要度）も変化する。そこで、本実施例では時間の流れも1つの要素として考慮しながらプロジェクトメンバを決定する場合について説明する。

【0 0 3 1】なお本実施例においても、前述の実施例で説明したとほぼ同様のシステムを用いて、ほぼ同様の処理を行うので、共通のシステムや処理については、同じ装置参照番号やステップ参照番号を付して言及し、説明は省略する。

【0 0 3 2】図7は本実施例に従うL A N結合分散型情報処理システムに組み込まれた意志決定支援システムの構成を示す図である。本実施例の場合、図7に示すようにシステムには、システムに結合されたワークステーションの利用者全員のスケジュールを管理するスケジュールデータベース5（以下、S D Bという）が追加されている。このS D B 5もL A N伝送路3を通してS Q Lによってアクセスされる。

【0 0 3 3】本実施例に従うプロジェクトメンバ選定処理は前述の実施例と比較してステップS 9のみが異なるので、その点を図8に示すフローチャートを参照して説明する。

【0 0 3 4】まずステップS 9 1において、現在従事しているプロジェクトの重要度（ $f_3$ ）と考慮中のプロジェクトの重要度（ $f_4$ ）とを比較する。ここで、 $f_3 < f_4$ であるなら、処理はステップS 9 7に進み、前述の実施例と同様に、現在の業務の重要度（ $f_3$ ）をスコア（S）から引く。これに対して、 $f_3 \geq f_4$ であるなら、処理はステップS 9 2に進む。

【0 0 3 5】ステップS 9 2では、スコア（S）が所定の値（ $S_0$ ）に達しているかどうかを調べる。ここで、 $S \geq S_0$ であるなら、その候補者がプロジェクトに適任者であるとみなして、処理はステップS 9 3に進み、 $S < S_0$ であるなら処理はステップS 9 7に進む。ステップS 9 3では、その候補者のスケジュールについて、S

D B 5に照会する。この照会処理では、その候補者が現在従事している業務の残り期間（ $T_0$ ）などについて問い合わせる。さらにステップS 9 4では、 $T_0$ の値がプロジェクトの期間（T）と比べて、十分に短いかどうかを調べる。ここで、 $T_0 \ll T$ であるなら、処理はステップS 9 5に進み、そうでないなら処理はステップS 9 7に進む。

【0 0 3 6】ステップS 9 5では、現在の業務終了後に考慮中のプロジェクトに参加するよう遅延召集時期を候補者テーブル1 3にセットする。さらにステップS 9 6では、その候補者がプロジェクトメンバに選ばれ易くなるように、現在従事しているプロジェクトの重要度（ $f_3$ ）に残り期間（ $T_0$ ）を考慮した重み付け（0～1の値をかける）した値をスコア（S）より引く。

【0 0 3 7】従って本実施例に従えば、現在の業務の重要度が高いかどうか、候補者が現在の業務にどれほど関与しているかどうか、現在の業務の残り期間がどれほどかどうかを考慮してプロジェクトメンバの決定を行うことができる。そして、その候補者のスケジュールを考慮して適切な時期より、そのプロジェクトメンバとしての参加を要請することができる。

【0 0 3 8】〔第3実施例〕前述の2つの実施例ではW S 1がプロジェクトメンバのメンバ選定処理に中心的な役割を果たすものとして動作した。本実施例では、前述の2つの実施例で使用した個人データベースやスケジュールデータベースを総合的に管理し、かつ、そのような処理を専用的に実行するサーバをシステムに加え、そのサーバがプロジェクト会議の参加要請処理を実行する場合について説明する。

【0 0 3 9】なお本実施例においても、前述2つのの実施例で説明したとほぼ同様のシステムを用いて、ほぼ同様の処理を行うので、共通のシステムや処理については、同じ装置参照番号やステップ参照番号を付して言及し、説明は省略する。

【0 0 4 0】図9は本実施例に従うL A N結合分散型情報処理システムに組み込まれた意志決定支援システムの構成を示す図である。本実施例の場合、図9に示すようにシステムにはP D B 2とS D B 5を総合的に管理するサーバ6が追加されている。従って、会議の参加要請処理（プロジェクトメンバの選定処理、会議出席要請のための電子メール発行など）はサーバ6によって行われる。この場合、W S 1はL A N伝送路3を通してサーバ6に対して、プロジェクトの会議の議題やプロジェクト発足の各種条件（テーマ・技術分野・緊急度・性格・期間・人数など）を入力するのみである。

【0 0 4 1】なお、図10に示すフローチャートではあるプロジェクトに関する出席要請をプロジェクトメンバに対して行う処理を示しているが、その処理手順はステップS 1 0 1～S 1 0 2を除き、図4に示した処理をまったく同様である。従って、ここではその相違点である

ステップS101～S102のみを説明する。

【0042】ステップS8までの処理の後、ステップS101でサーバ6はSDB5に対して候補者のスケジュールを照会する。ステップS102ではSDB5から検索されたその候補者の会議開催予定日時におけるスケジュールの重要度を、その候補者のスコアから引く。

【0043】従って本実施例に従えば、プロジェクト会議主催者が会議の議題やプロジェクト会議の各種条件（テーマ・技術分野・緊急度・期間・人数など）を入力するだけでプロジェクトのスケジュールなどを考慮することなく、適切なメンバに対して会議への出席要請をすることができる。

【0044】尚、本発明は、複数の機器から構成されるシステムに適用しても良いし、1つの機器から成る装置に適用しても良い。また、本発明はシステム或は装置にプログラムを供給することによって達成される場合にも適用できることは言うまでもない。

【0045】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、入力された条件に基づいてデータベースを検索し、さらに入力された条件とデータベースより検索された情報から重要な情報を抽出するので、データベースに格納された情報に基づいて、意志決定を容易に行うことができるという効果がある。さらに、その情報が通信手段によって通知されるので、迅速にその意思決定が他に伝えられるという利点もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の代表的な実施例であるLAN結合分散型情報処理システムに組み込まれた意志決定支援システムの構成を示す図である。

【図2】個人データベース2の内容を示す図である。

【図3】プロジェクトメンバ選定処理の概要を示す図である。

【図4】プロジェクトメンバ選定処理の処理プログラムを示すフローチャートである。

【図5】プロジェクトメンバ選定処理の処理プログラムのステップS7の詳細な処理を示すフローチャートである。

【図6】プロジェクトメンバ選定処理の処理プログラムのステップS8の詳細な処理を示すフローチャートである。

【図7】第2実施例に従うLAN結合分散型情報処理システムに組み込まれた意志決定支援システムの構成を示す図である。

【図8】第2実施例に従うプロジェクトメンバ選定処理の処理プログラムのステップS9の詳細な処理を示すフローチャートである。

【図9】第3実施例に従うLAN結合分散型情報処理システムに組み込まれた意志決定支援システムの構成を示す図である。

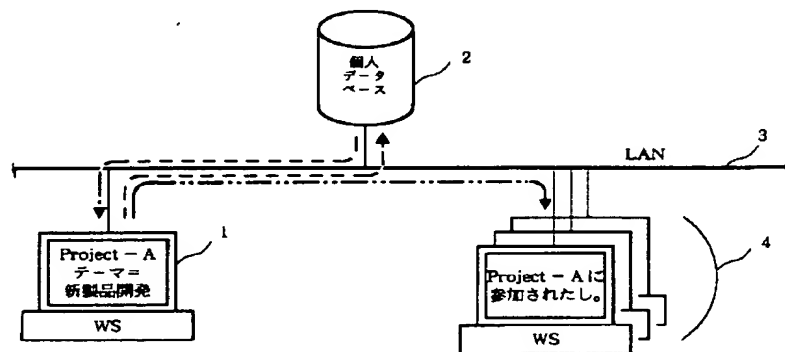
【図10】第3実施例に従うプロジェクト会議への参加要請処理の処理プログラムを示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 1、4 ワークステーション
- 2 個人データベース
- 3 LAN
- 5 スケジュールデータベース
- 6 サーバ

30

【図1】

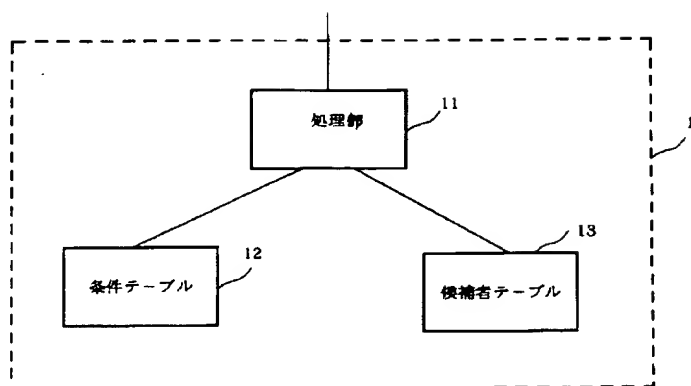


【図2】

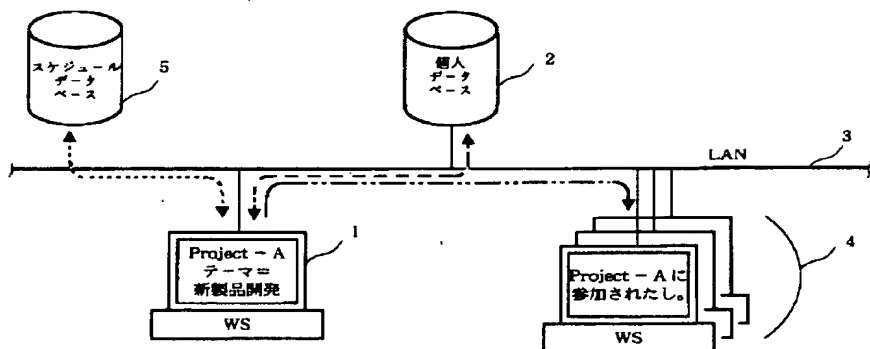
氏名	社員コード	メール・アドレス	技術分野	資格	得意分野	現在業務	重要度
阿川一郎	12345	agawa.sample canon.co.jp	電子工学 管理工学	英検1級 普通免許	CAD・アナログ回 路設計	製品A 回路設計	20
井上ひさし	23456	igawa.sample canon.co.jp	ソフト ウェア工学	情報処理 技術者	UNIX エキスパー ト・データベース	社内LAN管 理者	13
宇野花子	34567	ohana.sample canon.co.jp	有機化学 分子設計	自動2輪免許	DNA設計	抗ガン剤 開発	45
...	...	...	...	...	...	...	...



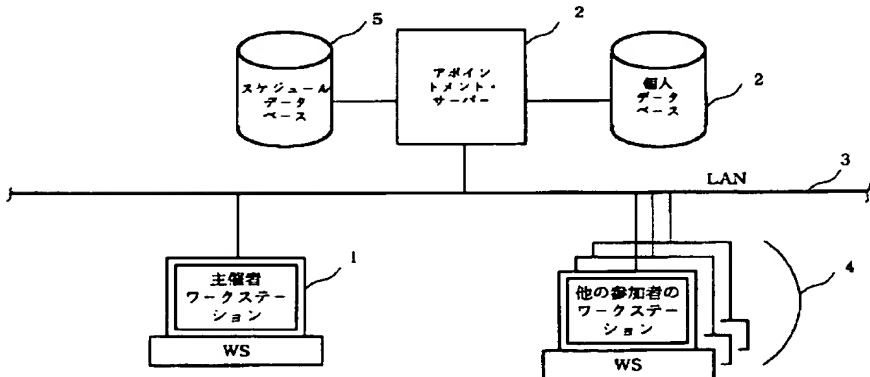
【図 3】



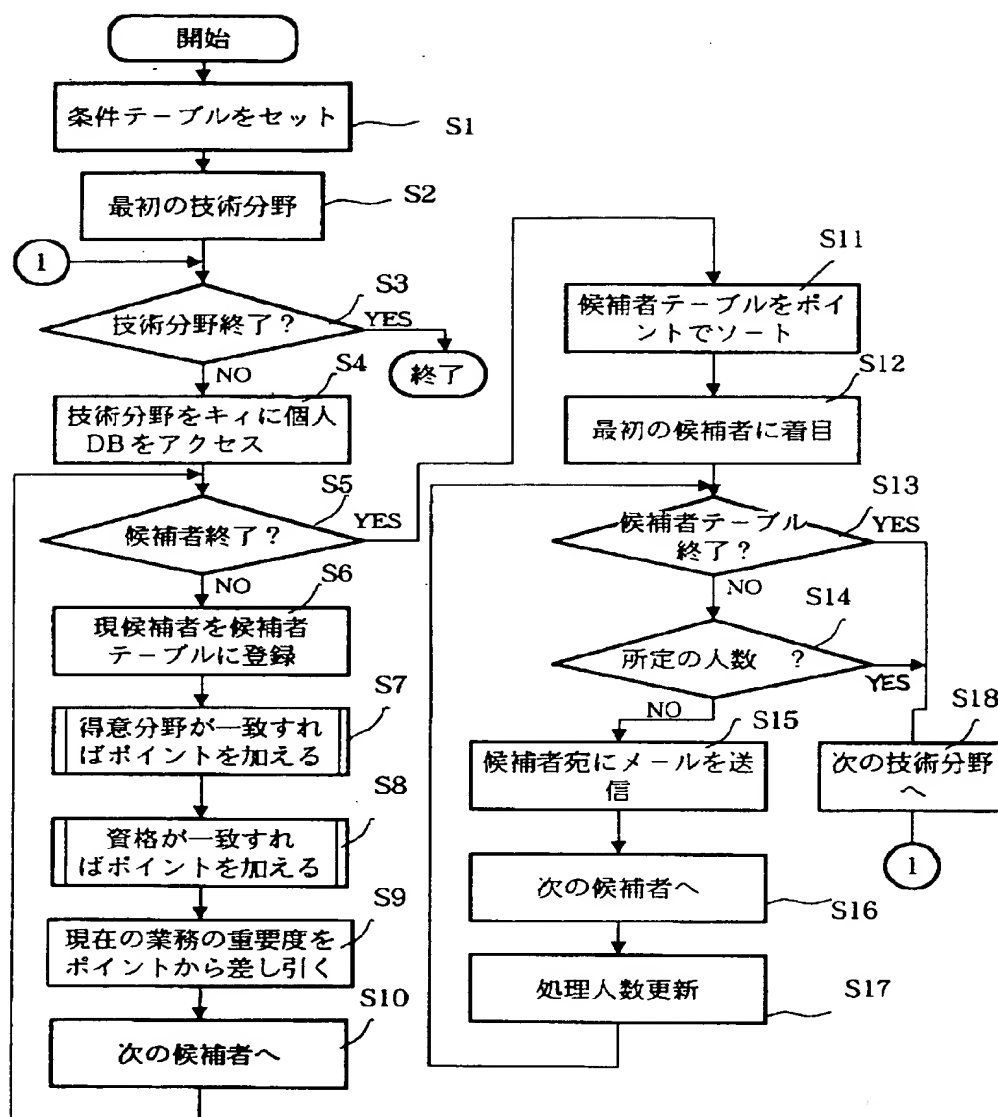
【図 7】



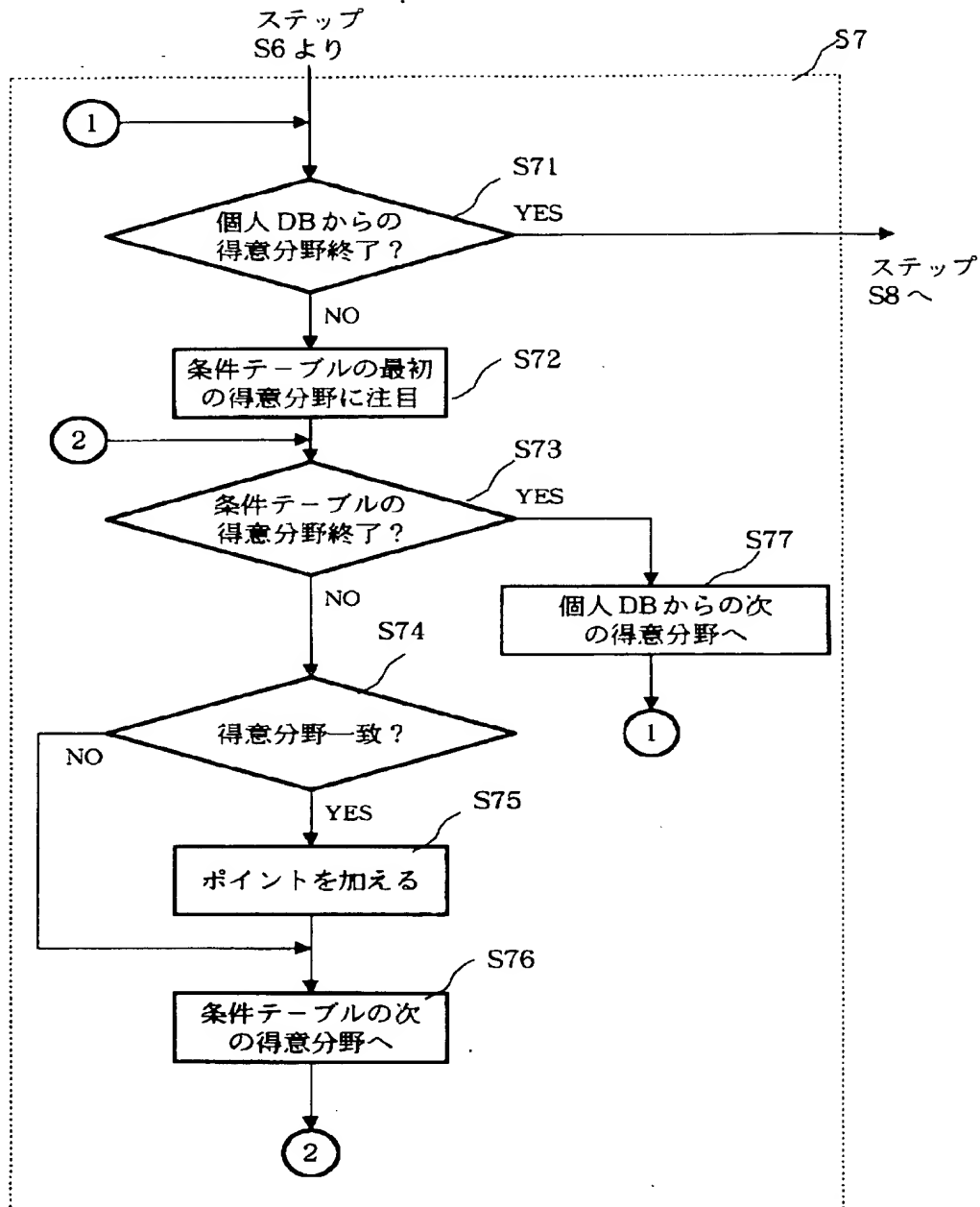
【図 9】



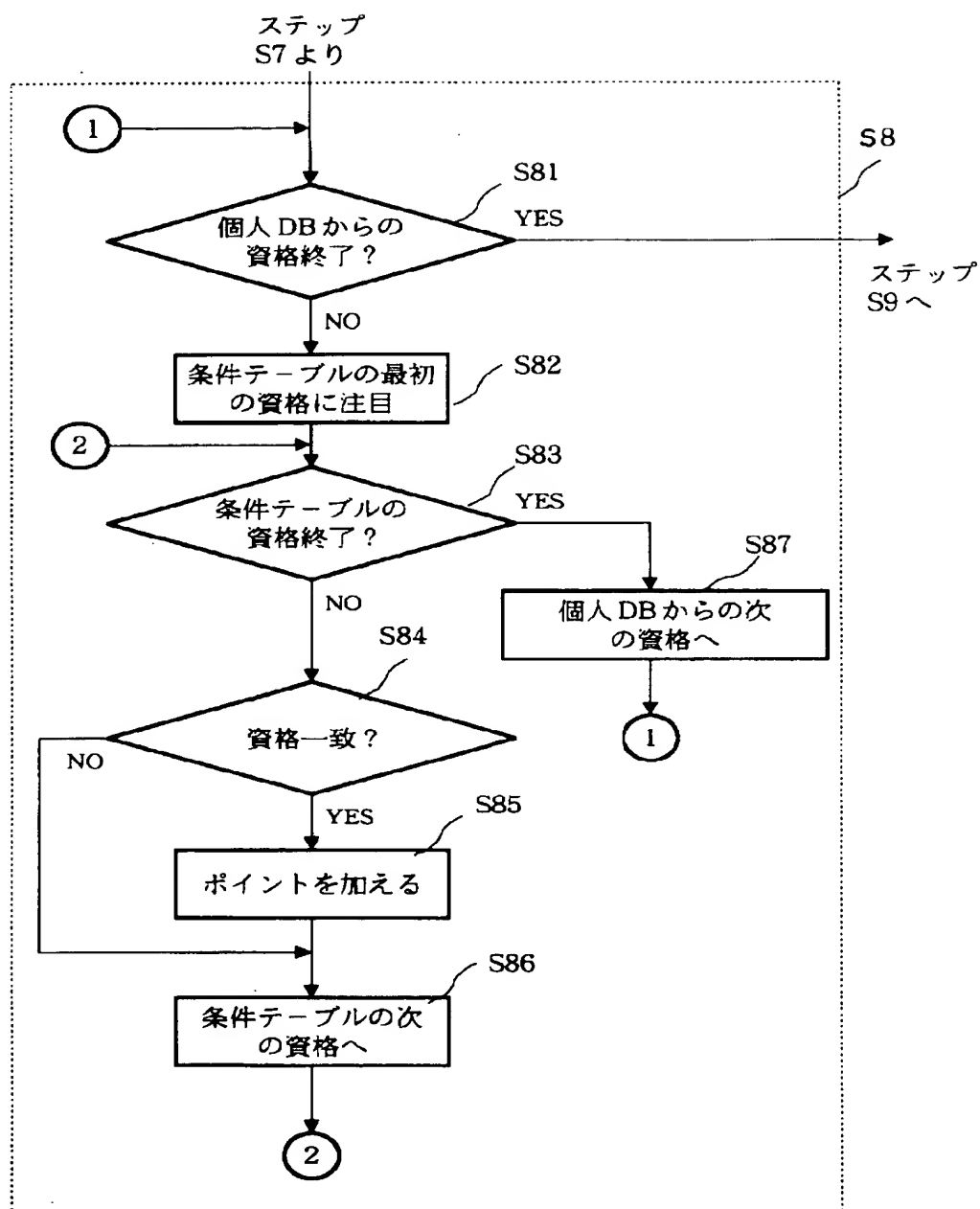
【図 4】



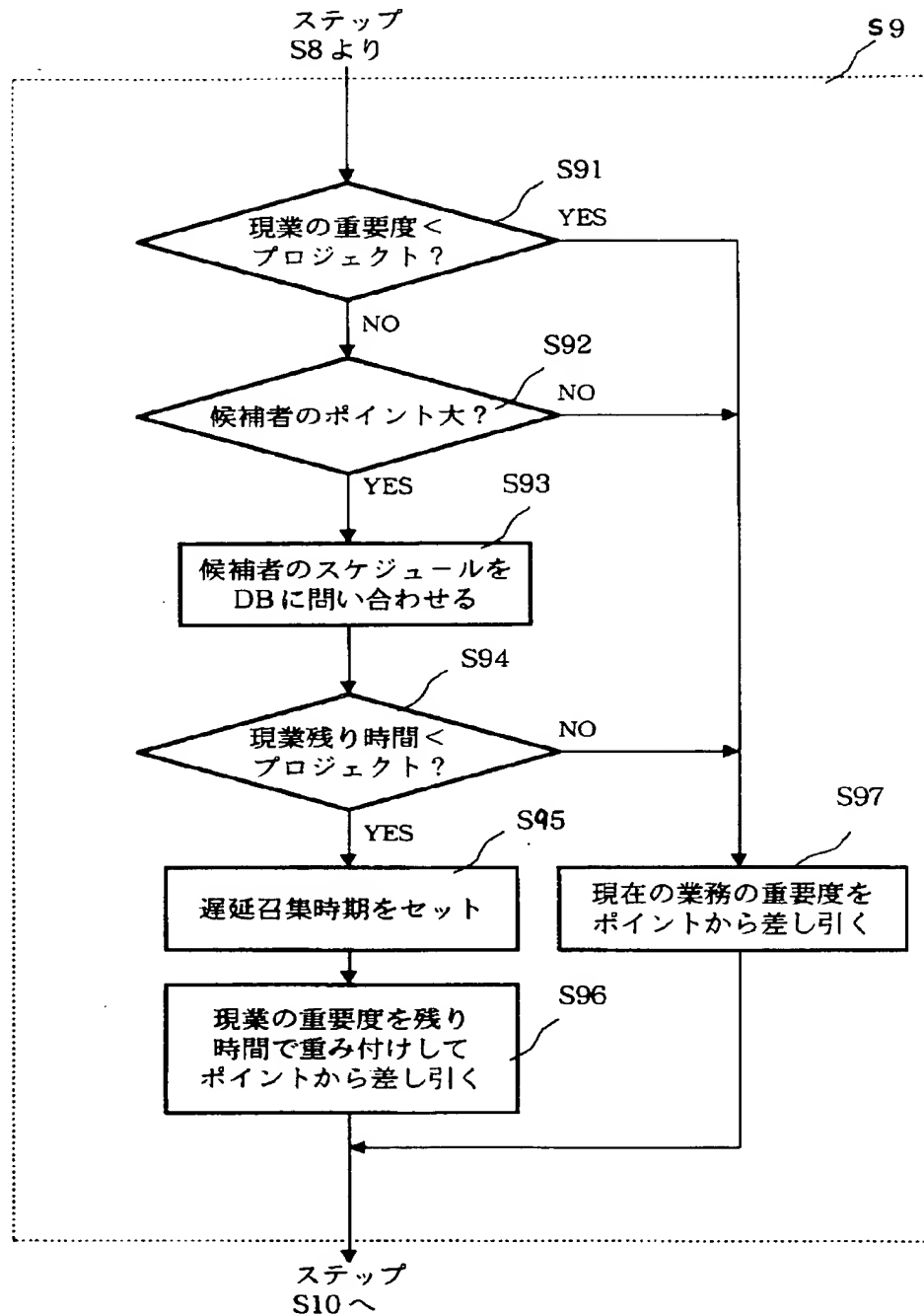
【図 5】



【図6】



【図8】



【図10】

